

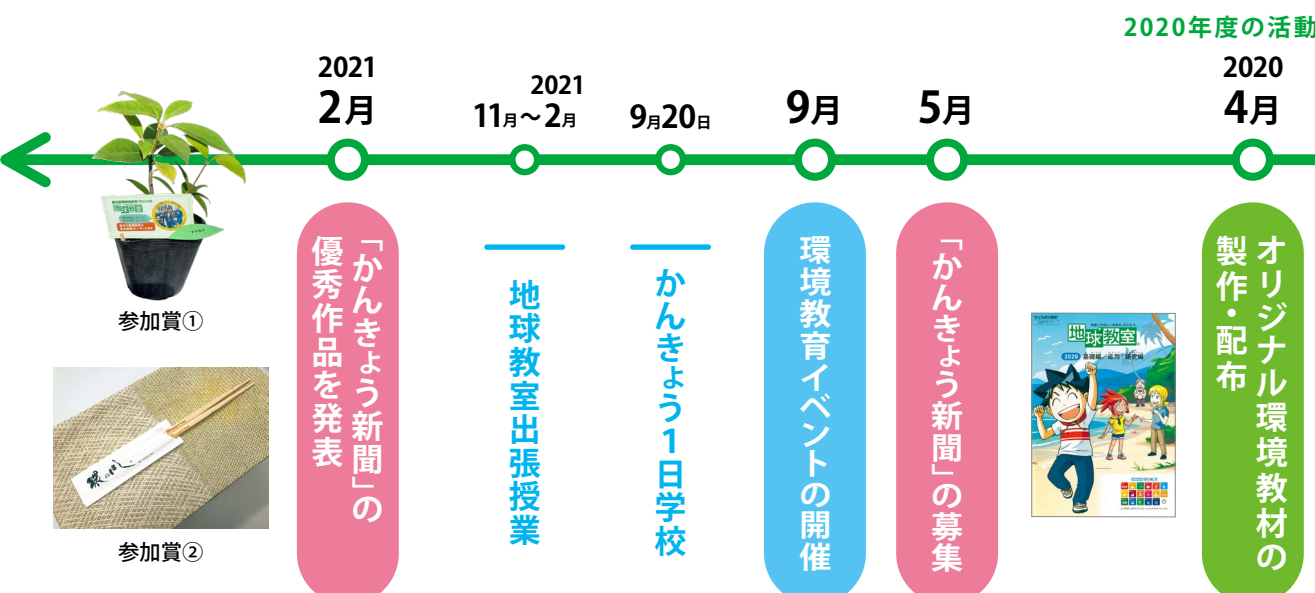


地球教室®

地球にやさしい未来を、みんなで。

未来につながる環境教育を

出張授業や体験型イベントなどを通して国内外の環境問題を身近に捉えてほしい、持続可能な未来のために行動する人に育ってほしい——。13年目を迎えた朝日新聞の環境教育プロジェクト「地球教室®」。今年も、学校・行政・企業が一体となって、子どもたちとともに様々な視点から地球環境について考えました。



▲20年度の参加賞は選べる2タイプ。
①串木②材木加工時の端材でつくられた環のはしとして、国内の山林に1本植樹されます。

各協賛企業のテーマに沿った「かんきょう新聞」は夏休み・冬休みの宿題などに利用され、13383作品の応募がありました。応募してくれた子どもたち全員に、参加賞をプレゼント。

応募総数 13,383 作品
子どもたちの優秀作品を本日発表します。

▲出張授業の様子は次のページ（広告紙面）から

環境活動に注力する企業と朝日新聞社の記者たちが全国の小学校など5カ所で開催出張授業を開催。国内外の環境問題を伝えました。

東京・有楽町に全国の小学4～6年生、約60人が集まりました。記者のレクチャーを受けた子どもたちは企業の環境活動や学び、「かんきょう新聞」作りのための取材にも挑戦しました。

環境について学ぶなかで興味を持ったこと、考えたことを伝える「かんきょう新聞」の募集を開始しました。

独自の環境活動を展開する企業や環境問題の専門家講師に招き、全国各地で様々なイベントを開催しました。

朝日新聞社が製作した教材を、全国の小学校や団体に無料配布。計26万人の子どもたちの手にわたりました。

テキスト「地球教室2020」
「基礎編／応用・研究編」として、多様な情報を1冊にまとめた教材です。環境問題を総合的に学ぶことができます。

取材をもとに「地球の現状」を伝える 朝日新聞記者の授業

エコ活動に取り組む企業とともに、記者5人が国内外の環境問題を解説しました。

前代未聞の「今」だからこそ

君たちは、人類が経験したことのない時代に生きている。地球環境の危機を乗り越えるためのマニュアルはない。でも、これほどワクワクする挑戦はない。人類と世界を守るために、みんながヒーローになってください。

編集委員 石井 徹

環境問題は病気を生み出すことも

地球温暖化などの環境問題は、私たちの健康にも深い関係があることを紹介しました。環境の変化ですみかを追われた野生動物が、ヒトに近づくことで新たな病気が発生します。新型コロナウイルスもその一つなのです。

科学医療部 次長 小堀龍之

アクション一つで、未来は変わる

アフリカの森林に進む野生動物の密猟の問題と一緒に考えました。今、世界では様々な環境問題に対して、若者が声を上げ始めています。皆さんの行動が地球の未来を左右します。「学び」「行動」につなげていきましょう。

科学医療部 次長 中村浩彦

人間の活動は地球に負担をかける

農業は地球にやさしい産業に見えるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。人間の活動は様々な形で地球に負担をかけます。地球を守るために私たちに何ができるのか。一杯のコーヒーから考えました。

科学医療部 次長 勝田敏彦

体験を通して意識は芽生える

地球温暖化は難しいテーマですが、まずは「おもしろい」「やりがいがある」と感じてほしくて、授業ではいろんな事例を紹介しました。友達や家族に伝えたり、自分で何か始めてみたり。そのきっかけになればうれしいです。

科学医療部 記者 戸田政考

一部プログラムはオンラインを併用

感染予防対策として、今年度はかんきょう1日学校と出張授業（一部）でオンライン授業を導入しました。地球教室®ではこれからも、多様な気づきをもたらす双方向型の学びを提供します。



優秀学校賞も選出

267作品の応募があった野田市立北部小学校（千葉県）が受賞しました。

かんきょう新聞優秀作品

かんきょう新聞の優秀作品は、地球教室®ウェブサイトでも公開中

朝日新聞 地球教室 検索

旭化成賞

「旭化成がつくったあさひ・いのちの森新聞」
中央区立常盤小学校（東京都）
4年 能川凱成さん

旭化成の「あさひ・いのちの森」を題材に、同社で働いていた祖父へのオンラインインタビューを通して、活動の歴史や内容を説明した。



●旭化成からのメッセージ
おじいさまに「あさひ・いのちの森」の活動を始めた理由や従業員の思いなどを聞き、それらに対して自分で考え、感じたことを率直に書いた「独創性」がピカイチでした。会話を楽しみながら、作成に取り組む姿が目に見えます。

ロッテ賞

「お菓子じゃなくて幸せをつくる？ロッテ新聞」
市川市立菅野小学校（千葉県）
5年 伊藤百花さん

「レッドカップキャンペーン」などロッテが海外に向けて取り組む活動などを解説。自身が日々、環境のためにやっている工夫も紹介した。



●ロッテからのメッセージ
環境についての問題提起パートから「自分に何ができるか」を考えたパートまで、紙面に一貫性がありました。単なるテキストの要約ではなく、読んでいてすんなりと内容が伝わってきました。レイアウトや色使い、文字の量にも工夫を感じます。

ナブテスコ賞

「さまざまな分野で役に立ちすぎ!!ナブテスコ新聞」
矢吹町立中畑小学校（福島県）
6年 井戸沼心優さん

ナブテスコが製造する飛行機の部品、自動ドア、車いすに注目。それぞれの製品の環境と人への配慮を伝え、植樹活動や工場の施策にも触れた。



●ナブテスコからのメッセージ
ナブテスコの「うごかす、とめる」技術が、省エネや地球環境を守ることなど、私たちの快適な暮らしに貢献していることについて、一貫したコンセプトで調べ、まとめてくれました。内容・構成ともに素晴らしかったです。

UACJ賞

「世界で輝くアルミニウム新聞」
刈谷市立住吉小学校（愛知県）
5年 澤田彩花さん

環境とごみ問題の関係性を様々なデータで提示。アルミニウムの優れた性質を説明し、3Rを意識して生活することの大切さを伝えた。

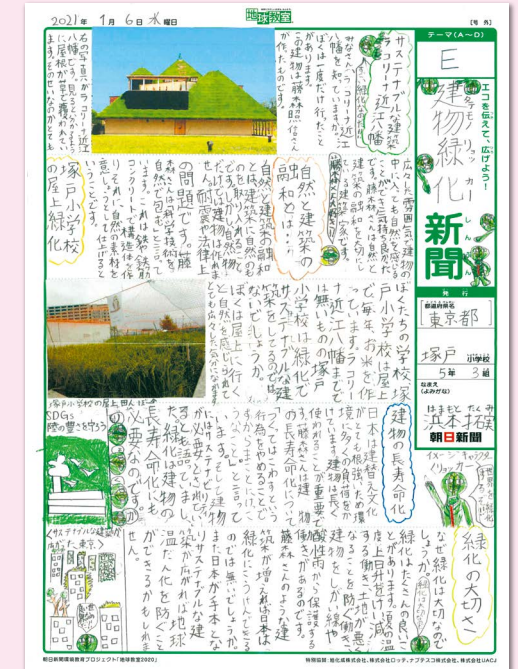


●UACJからのメッセージ
環境問題の解決にアルミニウムがどのように貢献できるか、私たちの思いをくみ取り、わかりやすく表現してくれました。構成、挿絵、色使いも上手で、UACJの取り組みについて、多くの人に興味を持ってもらえるような作品です。

ESD活動支援センター賞

「建物緑化新聞」
世田谷区立塚戸小学校（東京都）
5年 濱本拓実さん

緑あふれる複合施設「ラコリーナ近江八幡」と塚戸小学校の屋上を例に、SDGsや環境問題を踏まえサステナブルな建物と緑化の必要性を考察した。



●ESD活動支援センターからのメッセージ
「自分の好きな建物が持続可能な社会づくりに役立つ」という発見を、多くの人に伝えようとする思いを感じました。屋根に草を植えた建物と屋上で稲を栽培している自校の取り組みを例に挙げ、一般化した展開も読みごたえがあります。